

## 青年期女性によるライフコース選択の影響要因；文献検討

鈴木佳子<sup>1</sup>，西岡笑子<sup>2</sup>

防医大誌（2021）46（3）：123－128

**要旨：**本研究は、青年期女性のライフコース選択とその関連要因について文献検討を行った。医中誌 Web と CiNii をデータベースとし、以下の包含基準で論文を抽出した。①原著論文、②対象は 18～24 歳の女子学生、③調査内容に「ライフコース選択」を含む、④研究デザインは限定せず、⑤日本国内文献。論文を精査し 10 論文を抽出した。その結果【性役割観】【自己効力感】【母親のライフコース】【学歴】が複数論文で挙げられた。法整備や教育は女性の性役割に関する価値観を変化させるため、女性の多様性のある働きが可能な法整備と女性の社会進出の意義を見いだせる教育が必要である。自己効力感が向上すると進路について主体的に考えることができるようになり、具体性を持ったライフプランを構築することができるため、自己効力感が向上するような支援が重要である。女性は自身の母親のライフコースをロールモデルとして踏襲しやすいため、母親世代のワークライフバランスの満足感を高めること、制度整備をするほか、母親以外のロールモデルの提示も重要である。男女平等の地位を目指す者、資格を以て長いキャリアの構築を考える者は就業志向が高かった。進学や就業に対し目的意識が強くなるようなキャリア支援を行うことは就業志向を強くさせることが示唆された。

索引用語： 青年期女性 / 女子学生 / ライフコース / キャリア

### 緒 言

現在の日本は深刻な少子高齢化や平均寿命の延伸によって労働力が不足している状態であることや、ライフスタイルや文化の多様化、高学歴化による女性の社会進出によって、女性労働者の活躍が期待されている現状<sup>1,3)</sup>にある。しかしながら就業継続やキャリア形成に関わる女性特有のライフイベント等によって若年女性にとってのライフコース選択は困難性が高い<sup>4,5)</sup>。教育から労働への過渡期でライフコースやキャリアデザインを展望・構築する時期にある青年期女性らが、その選択をするためには適切な教育・支援が必要である。よって本研究は、青年期女性がライフコースの展望を持つ際にどのような要因に影響されるのかについて文献検討を行い、そ

の上で青年期女性のライフコース選択に対する必要な教育・支援を検討することを目的とする。

### 方 法

#### 1. 方法

検索はデータベースとして医中誌 Web, CiNii を使用し、条件を法制定によって文献が増加する 2000 年から調査時最新の 2020 年までの日本語の論文とした。キーワードとして「女性 学生」「大学生」「若年女性」「ライフコース」「ライフデザイン」「キャリアプラン」で検索した。論文の採択基準は、①原著、② 18～24 歳の女子学生、③調査内容に「ライフコース選択」を含み、④研究デザインは限定せず、⑤国内文献とした。

<sup>1</sup> 防衛医科大学校医学教育部看護学科学生（現所属：自衛隊中央病院看護部）

Student, Division of Nursing, National Defense Medical College, Tokorozawa, Saitama 359-8513, Japan (Current affiliation: Division of Nursing, Japan self Defense Forces Central Hospital, Setagaya, Tokyo 154-8532, Japan)

<sup>2</sup> 防衛医科大学校医学教育部看護学科母性看護学講座

Department of Maternal Nursing, National Defense Medical College, Tokorozawa, Saitama 359-8513, Japan

令和 3 年 1 月 29 日受付

令和 3 年 2 月 22 日受理

2. 用語の定義

「ライフコース」とは個人の人生での経験を含めた一生涯の過ごし方であり、ライフコース選

択とは将来の人生選択<sup>6)</sup>である。本文中では就業の有無や継続等に関する選択を中心にした人生選択を指す。

表 検討の対象とした論文の概要

NO	論文タイトル/発行年	著者	目的	対象者	調査時期	調査項目	分析方法	結果	影響要因
1	若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観 /2000	中井美樹	大学時代の性役割観がキャリアアプランの選択に与える影響の検討	立命館大学産業社会学部の女子学生 464名	1996	ライフコース観、性役割観、他	主因子法 プロマックス回転 共分散構造分析	伝統的な役割分業を支持する者は家庭的なライフコースを選択する 女性の社会進出を支持する者は職業志向的なライフコースを選択する	性役割観
2	大学生における性役割志向によるライフコース観の比較 /2007	佐野まゆら	大学生の性役割志向と理想のライフコース観との関係の検討	大学生 533名 (うち女性 400名)	2002	SESRAS 理想のライフコース、他	$\chi^2$ 検定	平等志向であるほど仕事重視のライフコース選択の傾向がある	性役割観
3	青年期女子の「子どもを産みたい」理由と「子どもを産みたくない」理由について /2011	塩沢薫子	青年期女子の子どもを産みたい理由と産みたくない理由についての検討	S女子大学の1~4年生 303名	2010	「子どもを産みたい」理由尺度 「子どもを産みたくない」理由尺度 女性性受容尺度 SESRAS 個人としての自己実現尺度	因子分析 分散分析 多重比較 (Tukey法)	伝統志向は家事や出産・育児を女性の役割だと捉える 平等志向は家事や出産・育児だけが女性の役割とは捉えない 不安焦燥の強い女性は育児や母親役割に抵抗感や消極性が強い 女性性受容がされている者は女性の産む性として役割に肯定的 女性性受容がされていない者は女性の産む性としての役割に消極的	性役割観 女性性受容 自己効力感
4	若年女性における理想ライフコースの形成要因 /2014	大日義晴	若年女性の理想ライフコースの形成要因の検討	A女子大学の学部生、B看護専門学校生の未婚女性 453名 (A女子大学:257名、B看護専門学校:70名) 結婚・子無希望者を除いた261名を分析	2013	理想のライフコース 母親のライフコース、他	$\chi^2$ 検定 多変量解析 多項ロジット分析	母が専業主婦の場合、本人は再就職43.8、専業主婦30.0、両立26.3% 母が再就職の場合、本人は再就職55.0、両立32.1、専業主婦13.0% 母が両立の場合、本人選択率は両立85.1、再就職8.5、専業主婦6.4% 母のライフコースを踏襲する傾向 四年制大学生や資格取得を目指す看護専門学校生は就業志向	母親のライフコース 学歴
5	青年期女子のライフデザインと親準備性 /2015	服部律子ら	青年期女子のライフデザインと親準備性の検討	A大学1年生 451名 資格取得を目指す2学科 そうでない2学科	2013	ライフデザイン(自由記述) 親準備性尺度 交際経験の有無、他	各尺度、質問項目の相関	交際経験がある者はライフイベントを具体的に考えており、親になることに対する意識も高い	交際経験
6	女性大学生のキャリアアプランと「自立」の関連 - 心理的・社会的・経済的側面を含めて - /2015	松並知子ら	女子大生のキャリアアプランと心理的・社会的・経済的側面の関連の検討	大学、短期大学の女子大生 365名	2014	将来のキャリアアプラン 自立尺度 職業観尺度、他	主因子法:プロマックス回転 $\chi^2$ 検定 分散分析 多重比較 (Turkey法)	子無希望の人は、職場での良好な人間関係を期待しない傾向 非正規雇用を予定している人は男女平等の職場環境を想定していない傾向 職場でも良好な人間関係を期待しない者は子無希望 社会的関心が低い者は非正規雇用を選択する傾向 専業主婦や非正規復帰を選択した者は家事の自立が低い	学歴 自立 職業観
7	女子大学生の生活環境と将来設計 /2015	竹田美知ら	女子大生のライフコース設定要因、資本の認知と期待の程度との検討	女子大生 1211名	2012	理想のライフコース 性役割観 母親のライフコース 資源、他	クロス集計分析 一元配置分散分析 多重比較 (Tukey法)	夫婦の役割は平等であるべきと考える者は家庭と仕事の両立志向 夫婦は性別で役割分担すべきと考える者は家庭重視志向 母親が専業主婦の場合は本人は専業主婦を、再就職の場合は再就職を、両立の場合は両立を志向 《専業主婦コース》は家族内資源が裕福だが、家族内の性役割観に縛られる傾向 《両立コース》は資格等の個人資源を持ちたがり、家族外の資源を豊富に持つ傾向	性役割観 母親のライフコース 資源
8	女子学生の理想のライフコースと進路選択に対する自己効力感の変化: 青山学院女子短期大学のキャリア科目におけるアンケート調査から /2017	宇田美江ら	ライフコース観と進路選択に対する自己効力感についての検討	青山学院女子短期大学現代教養学科1年生 500名	2016	調査内容 理想のライフコース 進路選択に対する自己効力感 母親のライフコース、他	クロス集計 $\chi^2$ 検定 検定 因子分析 F検定 マン・ホイットニーU検定	自分の選択したライフコースに自信とこだわりがある者は自己効力感が高い キャリア教育という介入があっても母親のライフコースを踏襲する傾向	母親のライフコース 自己効力感
9	女子大学生のキャリア意識 - 学年差および理想とするライフコース別の検討 /2018	戸田里和ら	女子大生のライフコース別のキャリア意識の検討	2つの女子大学1~4年生 307名	2017	理想ライフコース CAVT、他	主成分分析 一元配置分散分析 多重比較 (Tukey法)	就業志向の者は将来設計や目標進路を明確化し、キャリア自己効力感が高い	自己効力感
10	女子大学生のキャリアアプラン選択の規定要因 - 獲得意識、進路選択に対する自己効力感、自尊感情、職業観 - /2018	松並知子ら	女子大学生のキャリアアプラン選択と獲得意識等との関連の検討(研究1) 獲得意識とキャリアアプラン選択・職業観との関連の検討(研究2)	大学・短期大学の女子大生1~4年生 500名 (4年制264名、短期236名) (研究1) 大学・短期大学の女子大生1~4年生 309名 (4年制127名、短期182名) (研究2)	2013 (研究1) 2014 (研究2)	将来のキャリアアプラン 獲得意識項目(独自)、他 (研究1) 将来のキャリアアプラン 獲得意識項目(独自) 職業観尺度 (研究2)	主成分分析:プロマックス回転 最尤法:プロマックス回転 $\chi^2$ 検定 多重比較(tukey法) (研究1) $\chi^2$ 検定 最尤法:プロマックス回転 判別分析 (研究2)	4年制大学生は就業継続を希望するものが多い、短大生は退職か再就職を希望するものが多い 就業を志向する者は自ら稼ぐ意識が強い (研究1) 4年制大学生は就業継続を希望するものが多い、短大生は退職か再就職を希望するものが多い やりがいがあるって男女平等な職場環境を望む者は就業継続を選択 仕事を通して良い人間関係を築こうとする者やプライベートを重視したいと考えた者は就業中断・退職を選択 (研究2)	学歴 獲得意識 (研究1) 職業観 (研究2)

## 結 果

### 1. 検索結果

抽出された845編（医中誌Web354編，CiNii491編）の論文について，前述の5つの採択基準を用いて表題および抄録の精査を行い，重複するもの，採択基準のいずれかを明らかに満たさない815編（医中誌Web340編，CiNii475編）を除外し，30編の文献を抽出した。この30編の本文を精読し，採択基準を満たさない20編を除外し，最終10編の論文を採択した（表）。

### 2. 対象者の主な特徴

女子4年制大学生のみを対象としたものが5編，男女大学生を対象としたものが1編，女子大学生・短期大学生と対象としたものが3編，女子4年制大学生・専門学校生を対象としたものが1編，女子短期大学生のみを対象としたものが1編であった。対象学年を全学年としているものは8編，第1学年のみを対象にしているものは2編であった。資格取得を目指す学部・学科を含むものは2編，そうで無い学科のみは2編，学部・学科不明は6編であった。

### 3. 理想とするライフコース選択率

採択した文献の中から，対象者が理想とするライフコースの明確な分類と選択率が示された文献は10編中7編あった。この7編において2000年から2020年までの女性らのライフコース選択の傾向の変化を見た。特に《退職・専業主婦

主婦コース》（＝結婚・出産等を期に退職し，専業主婦となる），《再就職コース》（＝育児等が終了した後に再度就職する），《両立・就業継続コース》（＝結婚や出産等で家庭を持って，家庭と仕事を両立し就業継続する）のいずれかを理想とした女性らの割合の変化に着目した（図1）。

2002年から2017年までの15年間の全体における比較を見ると，《退職・専業主婦コース》は約11%の増加，《再就職コース》は約12%の減少，《両立・就業継続コース》は横ばいを示した。なお文献2は女性の結果のみを扱っている。また，文献4は複数属性の文献対象を合算した選択率であるため，それぞれを分けて見ていくと後述の1），（4）に記載した【学歴】のような志向の違いが見られた。

### 4. ライフコース選択の影響要因

ライフコースの選択に影響する要因として文献中に挙げたものは，【性役割観】【自己効力感】【母親のライフコース】【学歴】【職業観】【女性性受容】【交際経験】【自立】【資源】【稼得意識】であった。その結果，4編が【性役割観】を，3編が【自己効力感】【母親のライフコース】【学歴】を，2編が【職業観】を含み，【女性性受容】【交際経験】【自立】【資源】【稼得意識】を含んだ文献はそれぞれ1編ずつ該当した。そのうち複数の文献および，複数の著者に影響要因とし

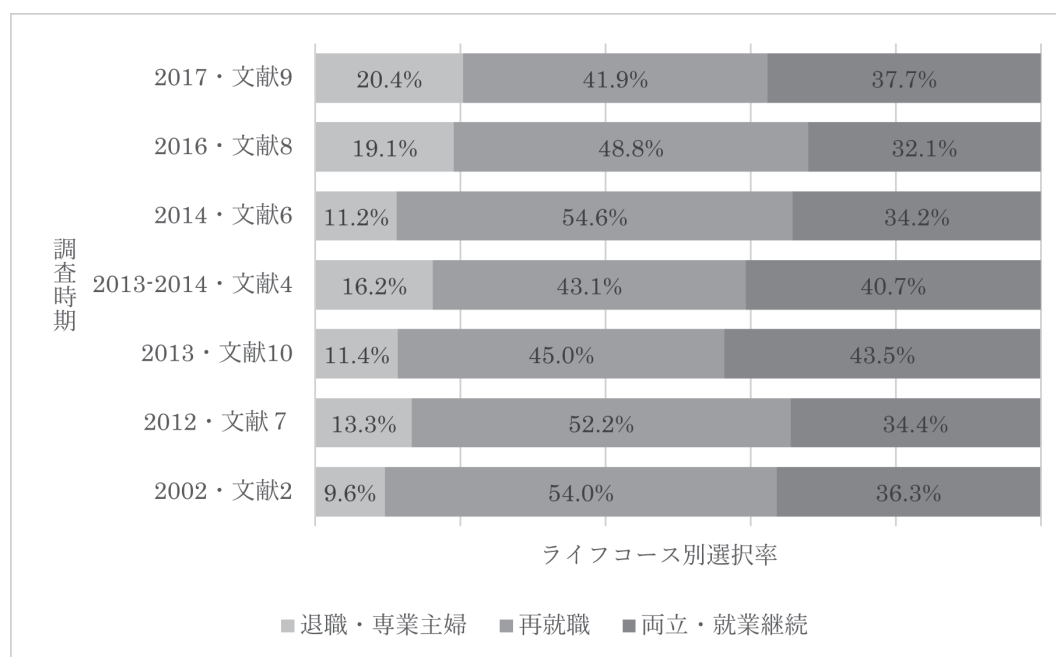


図1. 文献における理想とするライフコース選択率の推移

て挙げられた項目は【性役割観】【自己効力感】【母親のライフコース】【学歴】の4項目であった。

1) 複数文献・複数著者に挙げられた影響要因  
(1) 【性役割観】とライフコース選択

性役割観を挙げた文献は4編であった(文献1,2,3,7)。性役割態度の調査方法は、平等主義的性役割態度スケール短縮版<sup>7)</sup>を使用し調査した文献が2編(文献2,3)、文献における調査で質問紙による独自の項目で調査している文献が3編(文献番号1,7)であった。各文献の結果を統合すると、伝統的な性役割観の女性は家庭志向のライフコースを、平等的な性役割観の女性は就業志向のライフコースを選択する傾向があったといえる。

(2) 【自己効力感】とライフコース選択

自己効力感を挙げた文献は3編(文献3,8,9)であった。自己効力感の調査方法は、個人としての自己実現尺度<sup>8)</sup>を使用したものが1編、進路選択に対する自己効力尺度<sup>9)</sup>を使用したものが1編、CAVT(キャリア・アクション・ビジョン・テスト)<sup>10)</sup>を使用したものが1編だった。各文献の結果を統合すると、自身の将来設計を明確化し、それに対して自信を持つ者は自己効力感が高いが、育児や母親役割に抵抗感や消極性が強い者は自己効力感が低かった。

(3) 【母親のライフコース】とライフコース選択

母親のライフコースを挙げた文献は3編(文献4,7,8)であった。3編とも対象に対して質問紙による独自の質問項目で調査を行っている。各文献の結果を統合すると、多くの女子学生が母親のライフコースを踏襲する傾向にあり、キャリア教育等の介入が行われても大きな傾向の変化が無かった。

(4) 【学歴】とライフコース選択

学歴を挙げた文献は3編(文献4,6,10)であった。学歴は対象に対する質問紙の属性において調査を行っている。各文献の結果を統合すると、四年制大学生や国家資格取得を目指す看護専門学校生は就業志向の者が多く、短大生は退職か再就職を希望する者が多かったが、3者に有意差はなかった。

考 察

性役割観は社会における自分の持つ性の役割や意義についての考え方を支えており、ライフコース選択を行う上で根幹となりうる。平等志向であっても女性の社会進出に否定的な場合があるため(文献1)、男女共同参画社会の形成のためには女性の社会進出の必要性や権利に関する教育も重要といえる。育児・介護休業法や次世代育成支援対策推進法などの法整備や教育は女性の価値観を変化させ、ライフコース選択にも影響を与えている<sup>2,11)</sup>と考えられる。女

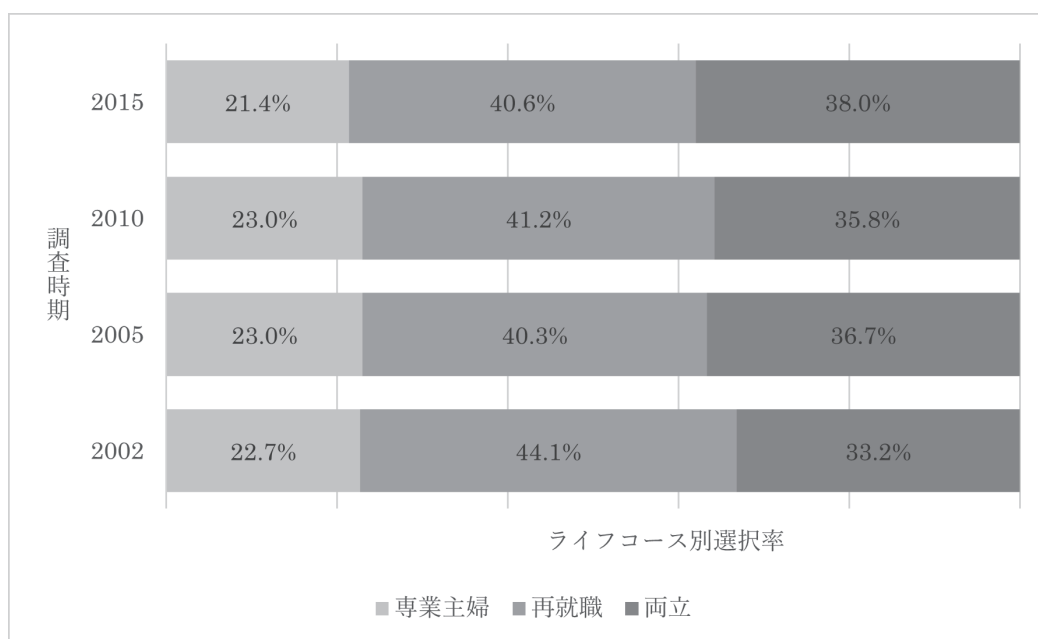


図2. 第12回から15回の出生動向基本調査での3コースの選択比率

性の多様性ある働き方が可能な法整備を行うとともに、女性の社会進出の意義を見いだせる教育が必要である。自己効力感が高い者は具体的な進路を考えており、その進路を実現させるために必要なプロセスにも主体的に取り組む傾向にあった(文献8,9)。そのため自己効力感の向上を支援することで、進路決定やそのためのプロセスについて主体性・具体性を持ってライフプランを構築することができると考えられる。また、女性は母親を人生のロールモデルとするため母親のライフコースを踏襲しやすい<sup>12)</sup>が、多くの可能性について考えられるようになるためには母親以外のロールモデルを示すことが選択の幅を広げることに有効だと考えられる。また母親が苦勞をし、生活と労働の両立の質が担保されていない姿を目の当たりにしているとむしろそのライフコースを避けるような選択をする傾向があった<sup>13)</sup>ため、母親世代のワークライフバランスの満足感を高めることも重要<sup>14)</sup>だと考えられる。学歴と就業志向性については直接の関連があるのではなく、進学への目的意識と就業志向性に関連があると考えられる(文献4,6,10)。4年制大学生や専門学校生はキャリア構築のために進学による学歴や資格を欲するが、短大生は就業を結婚し家庭を持つまでの一時的なものとして捉え、家庭を中心とした将来像を持っている<sup>15)</sup>ため、就業に対する進学の目的意識は低いと考えられる。そのため、文献8の結果と第15回出生動向基本調査<sup>16)</sup>を比較しても、一般的に高学歴と言える女子短大生よりも一般女性の方が高い就業志向を示した。高学歴を前提とする風潮に関わらず進学の必要性が明確でない者は、意欲的な就業志向性に通じないと考えられる。進学や学歴は受け身にせず、進学に目的意識を持てるキャリア教育は就業志向性を向上させる可能性が高い。

ライフコース選択率は、各年一件のみ・文献ごと対象者の属性等が異なる中で比較することには困難性があるため、一般女性を対象にした出生動向基本調査<sup>16)</sup>との比較を行いたい。文献検討の対象となった論文中の女性は出生動向基本調査における一般女性よりも就業志向の低下が見られた(図1,2)。

これは論文中の女性が一般女性と比較し、

高学歴であったことに加え、2000年代の初頭の男女共同参画や女性の社会進出の推進などの機運も高まっていたことから、一般女性の就業志向性が高まったためであると考えられる。しかしその後、社会制度の整備不良や女性の大学進学率の上昇により、高学歴であることが一般化されたこと<sup>3)</sup>、女性の社会進出の困難性が浮き彫りになった<sup>17)</sup>ことで、論文中の女性の就業志向性が一般女性に近似していったことが考えられる。これらのことから、女性の就業志向性もその時代の法整備や教育、社会的風潮に大きく左右されるということが考えられる。性役割観と同様に、女性の多様な生き方・働き方に対応するような制度等の整備(保育施設・環境や多様な労働形態、配偶者控除制度や健康保険制度などの収入による制限の緩和等)も急務であるといえる。

## 結 論

性役割観は女性の社会進出に関する法整備と教育によって変遷するため、女性の多様性ある働き方が可能な法整備と女性の社会進出の意義を見いだせる教育が必要である。自己効力感向上の支援は、自己の進路選択・決定にこだわりや自信、具体性を与える。母親のライフコースは、青年期女性のロールモデルとなっており、女性の選択を広げるために母親以外のライフコースの提示も大切である。学歴については進学の目的に左右され、男性と平等の地位を目指すもの、資格を取得し長いキャリアの構築を考えるものは就業志向であった。進学や就業に目的意識が強くなるようなキャリア支援を行うことは就業志向を強くさせることが示唆された。

## 利益相反

開示すべき利益相反はない。

## 文 献

- 1) 男女共同参画局：令和元年版男女共同参画白書：概要版・内閣府 .[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r01/gaiyou/](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r01/gaiyou/) (参照 2021-01-25)
- 2) 総務省統計局：労働力調査(基本集計)2019年(令和元年)平均集計結果の概要・総務省 .<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/ne/ft/index.html> (参照 2021-01-25)
- 3) 総合教育政策局：令和元年度学校基本調査(確定値)

- の公表について. 文部科学省. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k\\_detail/1419591\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00001.htm) (参照 2021-01-25)
- 4) 中島登美子, 山崎 希, 藤浪千種, 他: 青年後期から成人期の女性の育児における将来見通しの不確かさとジェンダー・アイデンティティおよびソーシャルサポートが子どもをもつ希望に与える影響. 自治医科大学看護学ジャーナル **7**: 3-11, 2010.
  - 5) 中村三緒子: 大卒女性のライフコースを分ける要因に関する研究. 日本女子大学現代女性キャリア研究所紀要 **2**: 66-81, 2010.
  - 6) 大久保孝治: ライフコース分析の基礎概念. 教育社会学研究 **46**: 53-70, 1990
  - 7) 鈴木淳子: 平等的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成. 心理学研究 **65**: 34-41, 1994.
  - 8) 平山順子, 柏木恵子: 女性の生き方満足度を規定する心理的要因—今, 女性の“しあわせ”とは?—. 発達研究 **19**: 97-112, 2005.
  - 9) 浦上昌則: 学生の進路選択に対する自己効力に関する研究. 名古屋大学教育学部紀要 **42**: 115-126, 1995.
  - 10) 下村英雄, 八幡成美, 梅崎 修, 他: 大学生のキャリアガイダンスの効果測定用テストの開発. キャリアデザイン研究 **5**: 127-139, 2009.
  - 11) 男女共同参画局. 世論調査, 男女共同参画社会に関する世論調査 (令和元年9月). 内閣府. <https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/index.html> (参照 2021-01-25)
  - 12) 井梅由美子: 大学生の結婚観, および子育て観について—自身の被養育体験, 父母との関係性, 対象関係に着目して—. 東京未来大学紀要 **13**: 11-21, 2019.
  - 13) 男女共同参画局. 男女共同参画白書 平成 26 年版. 内閣府. [http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h26/zentai/index.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h26/zentai/index.html) (参照 2021-01-25).
  - 14) 工藤寧子: 育児と仕事を両立させるための支援策とワークライフバランス満足度との関係. 東北女子大学紀要 **57**: 11-19, 2018.
  - 15) 上野淳子. ジェンダーおよび学歴による将来像の違い. 四天王寺大学紀要 **54**: 183-196, 2012
  - 16) 人口動向研究部. 第 15 回出生動向基本調査 (結婚と出産に関する全国調査). 国立社会保障・人口問題研究所. [http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15\\_gaiyo.asp](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp) (参照 2021-01-25).
  - 17) 松並知子, 荻野佳代子: 女子大学生のキャリアプランと「自立」の関連—心理的・社会的・経済的側面を含めて—. 神戸女学院大学論集 **62**: 121-136, 2015.

## Factors that influence female adolescents' life-course choices : Literature review

Kako SUZUKI<sup>1</sup>, Emiko NISHIOKA<sup>2</sup>

*J. Natl. Def. Med. Coll.* (2021) **46** (3) : 123–128

**Abstract:** We conducted a literature review of adolescent women's life-course choices and related factors. Ichushi Web and CiNii were used as databases, and articles were selected based on the following inclusion criteria: original paper, female students aged 18–24 years, included “life-course selection” in the survey content, the research design was not limited, and Japanese research. The papers were scrutinized, and 10 were selected. “View of gender role views,” “self-efficacy,” “mother's life course,” and “education” were mentioned in several papers. Legal developments and education tend to change the values surrounding women's sexual roles; therefore, it is critical to provide legal developments that enable women to work in diverse ways and education that realizes the significance of women's social advancement. Support for self-efficacy is also important because it leads to thinking independently and constructing concrete life plans. Because many women tend to model their life course after that of their mother, it is important to enhance work–life balance satisfaction of the mother's generation, improve the system, and present role models other than the mother. Those who aimed for gender equality and considered building a long career based on qualifications were more likely to work. Providing career support that strengthens the sense of purpose for higher education and employment may also strengthen work-style orientation.

**Key words:** adolescent women / female students / life courses / careers